

質問

災害に強い水道事業の推進を

回答

水の確保は最重要、着実に進めます

〔建設課長〕

当地域は関ヶ原―養老断層体が近くにある、大地震時には大きな被害が予想されます。

また、木曾三川からの流出土による沖積層からなる、軟弱な地盤で形成されています。その上、町のほとんどが海拔4〜5mと低く、9・12水害は今も忘れることができません。

このような中、災害時の上水道には多くの課題があるように思われます。

給配水管は、水源に近い所は太い管が使われています。

これらの管は、後4年で40年の耐用年数になり、耐震化はされていません。

この部分が全体の28%程あり、早急な対応が望まれます。これらの管は地下0.8〜1.2mに敷設され、比較的耐震性があると思います。今後は配水管の経年劣化の度合いと重要度を考え計画的に進めます。

大きな災害があった時の応急給水計画はどのようになっていますか。

〔建設課長〕

一般質問



岩田 譲治 いわた じょうじ

岐阜県水道災害相互応援協定で応急給水、設備の復旧や資機材等の貸与ができる体制ができています。

〔建設課長〕

「塩素くさい」「生ぬるい水が出る」などのクレームがあるようですが、回答など情報の提供は、利用者へのサービスのひとつです。

〔建設課長〕



水質計器の取り替え工事の様子（水道事務所）

が考えられますが、その状況と対応は？

今年4月に配水タンク、管理施設の耐震診断を委託しており、その結果をもとに来年から機械・電気関係の更新、太い配管の交換を行いたいと思います。

再度9・12のような水害があったら、現在の水源地は2m程水没してしまいます。第2水源の確保が望まれます。

配水タンクの耐震診断の結果をみて、今後10年間の中長期的な施策の中で、着実に実行できるよう計画します。

〔町長〕